

「Business Analysis Workshop 参加報告書」

京都大学経済学部・研究科4年 H.I.

私はアジア研究教育派遣プログラムを利用し、台湾で活動してきました。

まず、学習成果について。私はこれまで海外に行ったことがなかったので、今回のプログラムで海外に対する考えが変わりました。今までは海外に行くことに対してある種の抵抗感や嫌悪感を抱いていました。しかし、実際に行ってみたら刺激的で貴重な体験になりました。台湾の学生はいい方ばかりで勉学面でも非常に優秀な方が多くて学ぶべきことばかりだったので、もっと多くの時間を過ごせたらなと思いました。残念なことにもう卒業まで時間がないため留学という手段をとることは非常に厳しいですが、これからも機会があれば海外への長期滞在をして見識を広げつつ、自分自身をグレードアップしていきたいと思うようになりました。

具体的な経験について。今回のプログラムでの大きな行事として、国立台湾大学で、英語での合同プレゼンテーションがありました。そこでは私たちも発表をしたのですが、台湾の学生は英語力も高く、プレゼンテーションも上手かったので私自身もあのようになりたいと思いました。また、プレゼンテーションの前日やその後には向こう主催で懇親会を開いていただきました。そこで感じたことは台湾の学生は勉学面以外でも非常にアグレッシブだということです。懇親会の席では、台湾の学生が少数、場合によっては一人に対し、日本人多数という配置になっていました。それにもかかわらず、台湾の学生は我々に対して積極的なコミュニケーションをしていました。これは日本では考えにくいことなのではないかと思いましたし、今後は彼らを見習って積極的なコミュニケーションを取れるようになりたいと思いました。

次にプログラム内容について。一日目はホテルに着いて数時間経った頃に台湾の学生が迎えに来てくれて淡水という海辺に連れて行ってくれました。そこでは様々な露店が並んでいて日本では珍しいものをご馳走してもらいました。その後、台湾の大都市へ向かい、デパートの地下で懇親会を開いてもらいました。二日目は朝からプレゼンテーションでした。以前から京大で台湾の学生のプレゼンテーションは見ていましたが、実際に自分も英語でプレゼンテーションするとなると、レベルの違いを痛感し、これから英語力含むプレゼン能力をあげていきたいと思いました。その夜も台湾の学生に懇親会を開いていただき、親睦を深めました。三日目は日本人のチームだけで台湾観光をしました。博物館に行ったのですが、台湾の歴史が紹介されていて、蒋介石のことがメインで取り上げられており、偉大な人物であるということを痛感しました。また、そこでは人形が飾られているかと思ったら本物の人はずっと動いていないというものもあり、驚愕しました。それ以外にも、料理を食べたり電車に乗ったりして台湾のいいところを知ることができました。

もう就職先は決まっているのでこの経験によって進路が変わることはないですが、海外に展開している会社なので機会があれば海外に行きたいと思うようになり、今後のキャリア選択に幅ができました。